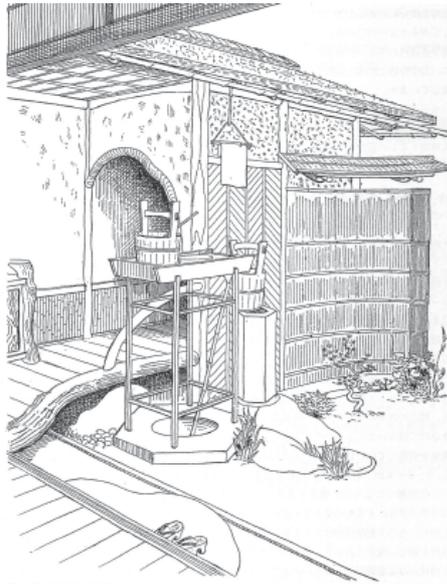


厠うんちくカレンダー

便所は、日本の家のなかでも、職人がとくに気をくばるところであるが、じつさいには、あまり目立たない。おそらく、人の目にとまらないところにあるためである。建物のなかでは、便所が不快の元凶とされ、とくに公共の建物では、なおさらそうである。しかし、日本の上流階層の家では、アメリカの大都市の豪邸にあるような、不快さや危険性はない。いなかの便所は、たいてい、ちいさな箱のような形をしており、主家からはなれてたつ。その出入口は開き戸である。都市の上流階層の家では、住宅のすみにあり、たいていは縁側のはしにある。ときには対角線上に、二つつくられることもある。参考図のプランにみるとおりだ。妙な迷信がたくさんあり、これによって便所の位置をきめるわけだが、おそらく中国のフウシューイ（注 風水）のまねであろう。便所は二つの部分からなり、はいったところに、木製か磁器の小便器がある。磁器のものをアサガオとよぶが、これはその形が朝顔の花に似ているからであらう。文字と通りの意味は、「朝の顔」である（図一）。木製のものには、モミの枝がはいっていることがあり、これはときどき補充される。おくにはいると、床に長方形の穴があいている。上流階層の家所は、この穴に取手のついたカバールをかぶせる。この穴のまわりの木に漆をぬることもある。これらの便所にわらは、藁のソウリや、木のゲタをおく。

便所の内部は一般的に簡素であるが、そのなかに大理石の家具がおかれることもある。内部にくらべて、便所への通路や、外廻りには、工夫のあとがみられるものがある。図二は、ふつうの便所のようなものである。図三は、日光のちかく、ハチイシの旅館にある便所のひとつである。図の手前、板張りの縁側がみえ、右にまがる、とちゅうで廊下の幅がせまくなる。その廊下は自然のままもちいられた木の幹でふちどりされている。左のほうにちいさな戸棚の一部がみえる。天井は、板をあんだような仕上げであり、腰は竹でしあげている。小便所の入口部分の壁は、ねじれたブドウの木でふちどられている。これには、ほかの自然木をつかうこともある。そのおくに開き戸があるが、開き戸がつけられるのは、台所の階段下の物入れと、ここだけである。なお、便所の屋根は柿葺きで、これについてはすでにのべた。外壁にそって垣根があり、そのまえに花や木がうえてある。これが上流階層の典型的な便所の姿だ。水桶と、洗面器をおく四本足の箱がみえるが、これは外人客のためのものだろう。この場所には、チヨウズバチがおかれ、手拭いがつりさげられるのがふつう

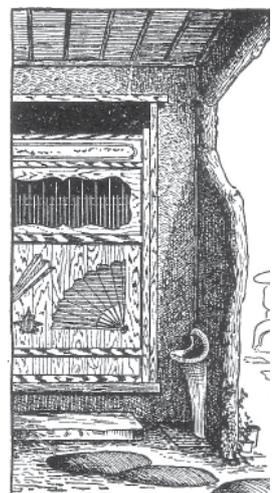


である。このような日本の農村の旅館の便所をみると、キリスト教国にみる農村のおなじ道具をおもいおこさせる！

図一は、東京の浅草にある商家の便所である。色のことなる各種の木をちりばめたデザインの内戸があるが、それは美しい指物の例である。内部は、仕上げもつよく、掃除もゆきとどいている。

便槽は、半分ほどの大きさの油壺や、大きな陶製の容器などである。これを地面にうめこんでいるので、外から汲みとるのにらくである。数日おきに、この汲みとりがおこなわれる。尿尿が農業にとってたいへんたいせつなものであることをしめすつぎのような話がある。広島のある安アパートでは、ヘヤに三人すめば、そのうちの一人の家賃は、三人の排泄物の代金で相殺されるといふ。おなじヘヤを五人でかると、ヘヤ代はただになる。シニョウを肥料としなければならぬ日本の農民にしてみれば、その価値と重要性とは、きわめておおきいのだ。農村の道端には、旅行者が用をたせるように、カメヤタルがうめられている。

アメリカ人としての判断をくだすとすれば、このようなものを尊重する日本人は、デリカシーに欠ける、といわねばなるまい。あえて正確にいえば、あまりにもおっぴらすぎるのだ。英語をはなす国民はまったく排他的であるが、かれらの代表がこのことについて、多少まじめな口調で、あたまたか日本人をバカにするのである。しかし、日本人は、たいせつな肥料をあつめているんだ、という気持ちがあるために、シニョウにたいする感情も、にぶくなっているのではないか。じつさい、これをかくそうとしても、ムリである。東京などの大都市から、郊外の田畑まで、まるいオケにシニョウをいれてはこんでゆくのだから。ものわりのいい人がこのような光景を目撃すれば、日本人の汚物処理はまったく無駄がない、というだろう。そしてもうひとつたいせつなことは、アメリカ人をなやます病気が、ここではみられない、ということである。アメリカ人がいくら汚物処理に努力してみても、きたない地下室や地下の下水管で、病原菌のいつばいの入江をつくりだすことになり、あまり効果があがっているとはいえない。日本には、こういったものはないのである。



エドモンド・モリス「日本の住まい・内と外」 鹿島出版会

エドモンド・モリス

明治30年来日し、大森貝塚を発見、初代東京帝国大学動物学教授。

有名な「日本の日その日」を著し、日本の住宅の人類学的研究の

著書「日本の住まい・内と外」で江戸から明治期にかけての住宅・

生活環境の貴重な記録を残す。

古代の厠



古代の厠の跡

厠の曆は古く糞石があるところすなわち古代の厠といえる。建造物としての厠はギリシアは無論、エジプト文明をもはるかさかのぼる紀元前3000年、今から5000年前のシュメール王朝がメソポタミヤのウル、ウルクなどに残した遺跡が最古であるといわれている。日干し煉瓦、防水用の焼いた煉瓦などが使われていた。また、テル・アスマルではアスファルトで煉瓦を固めた腰掛け便器がつくられ、焼きものの配水管で排泄物は下水道としてディヤラ川に流されていた。一般住宅用の水洗腰掛け便器として世界最古になると考えられている。また、近くではパーレン島には天水の利用を意図した水洗便器が作られていた。

エジプトにおいては、ナイル川の存在にもかかわらず水に不便し、水を大切にただけ水洗式便所ではなく溜め式便所であったり、戸外、街路等で済ませていた。年一回の氾濫で便所も氾濫し農地を肥沃



シュメール王朝時代の都市

にする助けにもなったようである。また、戸外にはカプト虫に似た糞を好んで食べる黄金虫があり、スカラベ(スカラブ・ザクレまたはサカラブ)といわれている。スカラベは糞の中に卵を産み、丸めて運んでいき、糞の中から新しい生命を生み出すので幸福のシンボルとされ、魔よけと幸福のものとして信じられ指輪、腕輪、ネックレスなどに飾りとして使われており、更に、王をよみがえらせ、復活させるという願いからツタンカーメンの墓の壁画にも使用されている。地中海に面した海外地



石をくりぬいた便器

方には時が経ると水洗便所がみられるようになった。

ギリシア・クレタ島では他の地中海地域と同じく水洗式で座席の下に溝を作り水を流すもので、宮殿のものには給湯設備のある、ものも見られる。紀元前4世紀ころには大理石を使用した共同便所もみられるようになった。

紀元前4-8世紀のローマには上下水道が完備し大規模な公衆便所がポンペイをはじめ多くの都市につくられた。またガストラというつぼを道端に置いた簡易便所が発達したがこれは尿から石鹼の材料を取るための目的から生まれたことが注意される。



古代の公衆便所

ウンチク資料
泰西中国トイレット文化考 雪華社
古代地中海世界の歴史 放送大学教育振興会

2005年

1月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

おまる、尿瓶、ナイトポット

古代の水洗式は例外的存在として、排泄は現在の便所のような場、空間でなされるより器具、家具と位置づけられる便器を使用してなされてきた。チャンパーポット、ナイトポット、尿瓶、洩瓶、樋箱(引き出しまでついた)、洩壺、虎子、夜壺等、多くの呼び方があるように、日本はもちろん韓国、中国、インド、ネパール、ヨーロッパ 広い地域で古くから使用されてきた。日本では渋紙に漆を塗り、皮で包んだ尿筒が古く信貴山縁起絵巻に描かれている。中国には後漢時代の虎子から最近まで使用されてきた馬桶(マドゥン) 韓国には嫁入り道具として欠かせないヨガン、日本は漆塗り、柿渋塗りの樋箱、青磁の洩瓶、そして一見、食器かと見まちがうチャンパーポット等男女用を問わず用いられてきた。

それぞれのものがその時代の工芸品として十分位置づけられるものも少なくない。



木製漆塗りのおまる



明治時代 益子焼



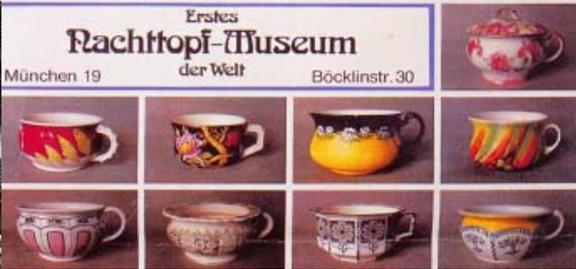
中国の粉彩仕女圖洩壺 (女性用尿瓶)



硬紅陶灰釉虎子 (中国後漢時代)



中国の馬桶(マドゥン) 竹のサラサで洗い出す



Erstes
Rachtopf-Museum
München 19 der Welt Böcklinstr. 30



最近まで嫁入り道具 韓国のヨガン



洗面用器と対になったチャンパーポット



女性用のチャンパーポット

ウンチク資料
糞尿と生活文化 21世紀のスカトロロジー 泰流社
世界のトイレグラフィティ オーム社雑誌局

2005年

2 月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28					

フール(豚便所)

便所と豚小屋を兼用し、排泄物を豚の餌することが沖縄で戦前までなされていた。しっかりした石組みでつくられた構築物であり、その一部は重要文化財に指定されているほどのものである。人の排泄物は50%近くが未消化部分であり、有効な飼料になっていたのである。この処理方法は養豚と排泄物処理をセットにし最終的に豚の排泄物を有機肥料とする、こんにちの世界的課題であるゼロエミッション(地球環境への負荷を限りなく少なくする)にあたる理想的方法であった。しかし衛生面からは有鉤糸虫(サナダムシ)に代表される寄生虫の豚と人間の間での循環という恐ろしい問題が存在、戦後、米軍の進駐と共に禁止された。

豚便所は沖縄に1392年福建省からピン人が帰化したときに豚を持ち込んだときからと



重要文化財の沖縄県中村家の豚便所

考えられている。中国の豚便所の歴史は



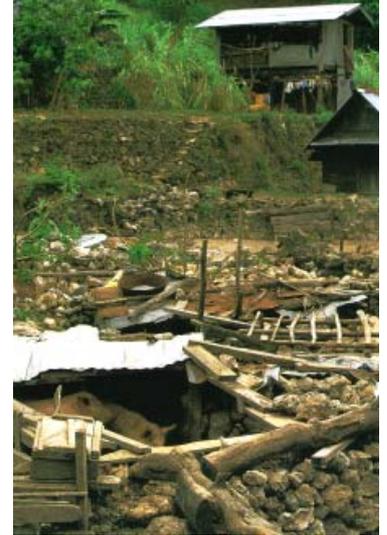
石組も堅牢に組まれた豚便所

漢代の墓から豚便所の土偶が発見されており、冢という文字が家という字の中にもみられることからかなり古くから存在していたことが考えられている。

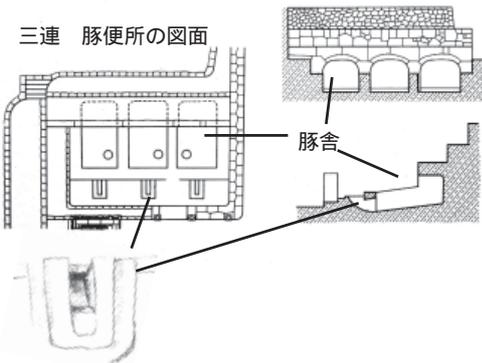
フールは中国、韓国、フィリピン、ブータン等、アジア各地に見られる。また、豚だけでなく、一部地域では牛、鶏、魚などの飼育に厠を利用していることがみられる。



メコンデルタ ベトナムの魚飼育の便所



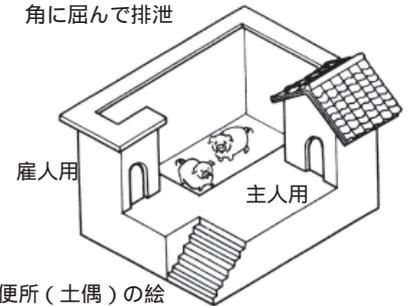
フィリピン・ルソン島の豚便所
角に屈んで排泄



トウシ(排泄場所)のスケッチ



実際に豚が飼われたころの写真



中国豚便所(土偶)の絵

ウンチク資料
日本トイレ博物誌
沖縄トイレ世替わり
トイレのおかげ

INAX 出版
ポーターインク
福音館

2005年

3 月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

無重力の厠

宇宙での排泄は無重力のため地上のような設備では船内中に排泄物が浮遊してしまう。尿は表面張力で細かい水玉になり綺麗な？光景になるという。はじめはビニール袋、オムツを使用していたがトイレ設備も開発されて快適な排泄が可能になってきている。

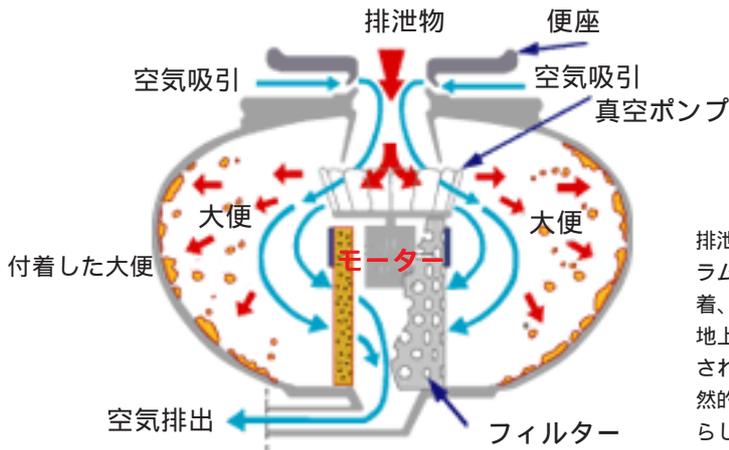
無重力で一番重要なことは身体を固定することである。うっかりすると排泄の作用・反作用の力で体に運動が生じるか(？)



手すりをつかみ、体を固定する。尿はシャワーホース状の管に流し込む。



Space Shuttleのトイレの機能図



排泄物は回転しているドラムの遠心力で壁面に付着、真空乾燥され、凝縮、地上に帰還するまで蓄積される。宇宙食生活は必然的にその量を自ずと減らしているはずである。



別タイプの宇宙トイレ

ウンチク資料
//www.toto.co.jp/kids/library/08.htm
世界のトイレ街道を行く TOTO 出版

2005年

4月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

パリ 廁まんだら



日本にも地下室用にポンプと糞砕カッターを内蔵し、高さ4mまで強制的に圧送排水する圧送トイレという商品がある。



18世紀にはチャンパーポットから捨てられる汚物等で腐った空気の満ちる町といわれたパリ。こんにちのパリは花の都パリを謳うための努力をし、その結果、市民も廁のおしゃれを楽しんでいる。

パリを訪れた人は一度ならずと靴底から柔らかな感触を経験されたことであろう。パリはペットのDroppingに悩まされている。そのためDropping吸引機を搭載したオートバイを巡回させている。台数が少ないらしく市民でもその存在を知ることが少ないらしい。

チャンパーポット全盛期の建造物も残るパリ、古い石造り建物で快適な廁を楽しむのは至難の業、配水管を水洗式に耐えうる太さにすることの難しさがある。細い配水管で対応するために、排泄物を細かくミンチし、強い圧力で強制排水する装置を高層階で準備しなければならない。

スイッチを押すと便器裏に付けられたモーターが作動しカッターとポンプが働き細い配水管に強制的に粉碎された排泄物と洗浄水が圧送される。



ペットDropping吸引バイク

パリの有料トイレ

その内部

PR企画マンの3行イ風廁

ジャーナリストの秘密の部屋という廁

ウンチク資料
PARIS W.C. アセット婦人画報社
世界のトイレ街道に行く TOTO出版

2005年

5月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

トイレ博物館

知多半島、中部国際空港への渡橋口の常滑市にトイレ博物館がある。日本六古窯の1つである常滑焼の地である。朱泥急須が有名である。海に面し地の利を生かし海上輸送に適した大きな甕、土管、薬瓶、衛生陶器などが古くから作られてきたこの地ならではの知る人ぞ知る博物館である。

この博物館は INAX の「世界のタイル博物館」に隣接する「窯のある広場・資料館」の常設展示コーナーをいう。展示品は生け花古流の千羽理應氏のコレクションである。大小の染付け古便器はもちろん、



常滑焼の風景

厠下駄、尿瓶などが展示されたガラスケースは圧巻である。

トイレ博物館には日本、中国、スペイン、英国などの美しく歴史を感じるタイルが展示されている。



上 甕瓶の展示ケース他に西洋のものも展示

左 染付け向高小便器の展示

下 小便器と厠下駄



土管、薬瓶で築かれた坂道
名称 土管坂

窯の煙突が空に映える



ウンチク資料
博物館だより 第19号 世界タイル博物館
太陽 特集コレクター 1998.8 平凡社
<http://www.na.rim.or.jp/~mizukam/index.htm>

2005年

6月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

Bidet

Bidetは18世紀初めにフランスで開発された。フランス人は風呂でなく主にシャワーで身体の清潔を保っていた。この時代、シャワーであっても今日のように毎日はもちろん週に1回のシャワー浴もなされていなかった。清潔好きな英国エリザベス女王ですら月に1回の入浴であった時代である。更に、壁に据え付けられたシャワーではお尻周辺は洗い難い。このような生活環境の中からBidetは男女共に排泄後に使用する家具として生まれた。回教圏を主とする中近東、アジアで排泄後、器の水で清拭を行う古くからなされてきた方法の影響も考えられるか。当初はお尻を洗う桶に過ぎなかった物が華やかに彩られ、装われステータスシンボルとなり、手押しポンプでスプレーができるようになって排水設備はなくあくまで家具であった。その後、上下水道設備が発達するにつれて噴水と排水設備を持つ衛生設備となった。

Bidetは欧州で野戦用の金属製の「将校用携帯Bidet」が作られたごとく男女の別なく清潔という観点で使用されていた。しかし、日本に限らず米国でも更に欧州ですら性行為と結び付けられてお尻の洗浄でなく、性器の洗浄を連想させ、最近にいたるまで普及することがなかった。海外旅行の珍しき頃、Bidetの使用目的に反し、洗濯、更に果物、WINEを冷やすのに重宝したという豪傑も存在した。

日本でBidetに対するイメージを根本的に変えるきっかけとなったのは一つの広告コピーであった。「おしりだって洗ってほしい」というコピー。このコピーがお尻への差別を無くしたといわれている。このコピーは「おしりだって(顔や手と同じように)洗ってほしい」というメッセージを伝えてお尻を性器でなく顔や手と同じ立場であるということに気付かせたものである。この広告コピーの一文が日本において排泄後の清潔行為を革命的に変化させることとなった。



1880年頃チェコスロバキア



1870年オーストリアのBidet



1925年噴水装置付Bidet



左 1933年建築の旧朝香宮邸(現東京都庭園美術館)2Fの貴殿下用浴室のBidet。
下 長男、次男用浴室のBidet
昭和初期、日本でも上流階級ではビデが日常に使用されていた。



1903年オーストリアのBidet



給水、給湯、排水機能を持つてからのBidet



ウンチク資料
 スカラベの見たもの TOTO 出版
 ヨーロッパ・トイレ博物誌 INAX 出版
 日本トイレ博物誌 INAX 出版
 トイレは笑う TOTO出版

2005年

7 月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

染付け古便器

厠の語源のように川側に川屋を作り尿尿を川に流してたのが室内で排泄し尿尿を一時的に溜める筈はこが生まれた。その筈が持ち運びできる木製箱型便器の樋管になり、それが地下に埋められ肥糞に板を置いた便所という場になり、板(床板)の腐食を防ぐ枠組みから土族、富豪層の住居に便器(木製)が生まれた。明治の初めころから木製便器に変わり陶器製の便器が登場した生産地としては瀬戸、信楽、常滑、赤坂(福岡)が主だった窯であった。便器の種類は角型大便器(げばこ)、朝顔型小便器(じょうご)、置便の3種類であった。明治24年の濃尾大地震後の復興需要で通常の焼物を焼く窯で焼かれた本業便器とよばれるものが大量に作られた。これらは粘土単味で作られ化粧槌で表面を白くし呉須で花鳥文が手書きされ、その豊かな装飾で明治末期まで多くつくられた。しかし、陶器であるため、吸水性が高く、釉面の貫入が多く汚水の染込みなどが生じやすく衛生上難が多かった。巨大な磁器の窯で焼く便器が便器需要の増加にあわせて作られるようになり丸窯便器といわれた。



奈良市藤岡家の
木製小便器



江戸時代
柿渋塗りの樋管



朝顔型小便器

向高小便器



海波鶴文小判型
大便器



草花染付け
小判型大便器



草花染付け
角型大便器

2005年

8 月

ウンチク資料
博物館だより 第19号 世界タイル博物館
太陽 特集コレクター 1998.8 平凡社
日本トイレ博物館 INAX 出版

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

馬車内の厠

オーストリア・ウィーンの郊外にハプスブルグ王朝の夏の宮殿シェーンブルク宮がある。この宮殿の敷地の中にワ・ゲンブルグ博物館という馬車だけを展示した博物館がある。その中にトイレを持った馬車がある。ハプスブルグ家馬車の30%はトイレ付の馬車だといわれている。

当時の豪華な馬車を描くオーストリアの切手
1972年発行



左 シェーンブルク宮殿外観

下 馬車の内部。座席の下に便器が用意されており下車することなく乗車を続けられる。周囲の豪華な内装から当時の生活が偲ばれる。



上 戴冠式用馬車



左 皇帝用馬車



ハプスブルグ家女性旅行用の馬車。2人用で1825年に作られ1918年まで使用された。ロバ2頭で引いたという。車輪を外された状態で展示されており、の位置に車軸が付けられる。

ウンチク資料
ヨーロッパ・トイレ博物館 INAX 出版
オーストリア美術財宝切手シリーズ馬車

2005年

9 月

日	月	火	水	木	金	土
			1	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

パノラマ厠



多目的トイレ

札幌駅前のJRタワーから夜景を眺めつつ



明石大橋、富士山を眺めつつ



第2次トイレブームがパノラマトイレの増加である。15年前、女性用トイレのリニューアルにより集客効果を上げた第1次トイレブームに次いでこのブームである。今回のブームは再開発によって建築された高層商業施設の集客競争をもたらしたものである。JR札幌駅のJRタワービルの最上階北東の角部屋にある男性用トイレは270度の眺望を楽しめる。おかげでかなりの集客効果を上げているという。この他に大阪のホテル日航ベイサイドホテルの32階スカイレストランの男性トイレからは明石大橋までを眺められるという。東京では港区ストリングスホテル、新宿小田急ホテルセンチュリーサザンタワーなどで

パノラマトイレを楽しめる。特に小田急ホテルでは女性用トイレも眺望を楽しめるという。

このパノラマトイレブームの前に建てられた高層庁舎の都庁男性用トイレからは冬の晴れた日には遠く富士を眺められる。また他の高層のオフィスビルでもストレス解消、生産性向上を意図し眺望をトイレに取り入れだしている。新橋に完成した松下電工本社ビルは5-24階の男性トイレはすべて窓際に配置されている。今後は女性トイレの眺望とプライバシーをどう調和させるか課題が残る。

ウンチク資料
日本経済新聞 2003.11.22
<http://www.jr-tower.com/t38/index.html>

2005年

10月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

曲屋・合掌造りの厠

最近まで残る民家の厠は家族構成、気象条件などで多少異なる点はあるが基本的には地中に大きな木製の便槽を埋め、その上に板を渡しただけの簡単な構造である。肥料として尿尿を汲みだしやすくなるための構造であり、安全に姿勢を保つための縄などが用意されても、夜間の使用の不便さ、清潔の保持、換気の困難さが偲ばれる。

岩手県紫波郡伝法寺星川家住宅

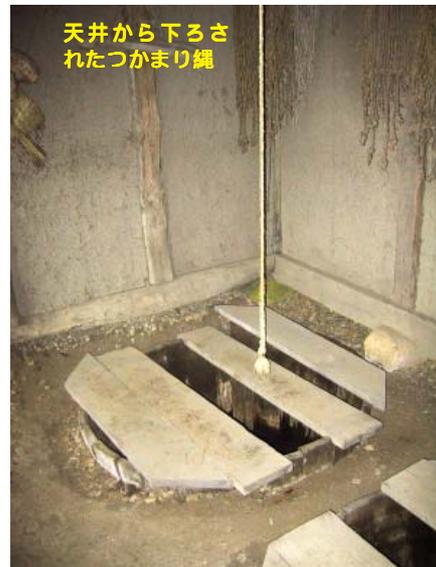
江戸時代後半の民家 当時大切な馬(南部馬)を見守れるように家族の住む棟と棟続きに直角に馬屋がつくられ曲屋と呼ばれる。厠は別

岐阜県白川村旧遠山家住宅

ヘンチャと呼ばれる間口3間2室の便所。周りを漆喰たたきで囲まれた直径2.1m、深さ1.5mの便槽が20人~40人の大家族の生活を支えた。渡された板の上の箱は糞べら入れである



* 棟にあり直径1mの木製便槽が2つ地面に埋められている。その上に渡された板間の溝を跨いでしゃがんで行った。天井からは安全を考慮した縄が下りている。



ウンチク資料
岩手県北上市 みちのく民俗村
日本トイレ博物誌 INAX出版

2005年

1 1 月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

廁・うんちく資料



2005年

1 2 月

日	月	火	水	木	金	土
			1	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31